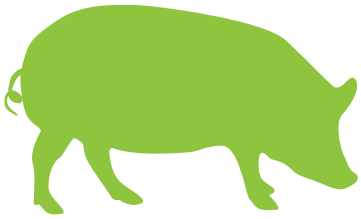
豚肉

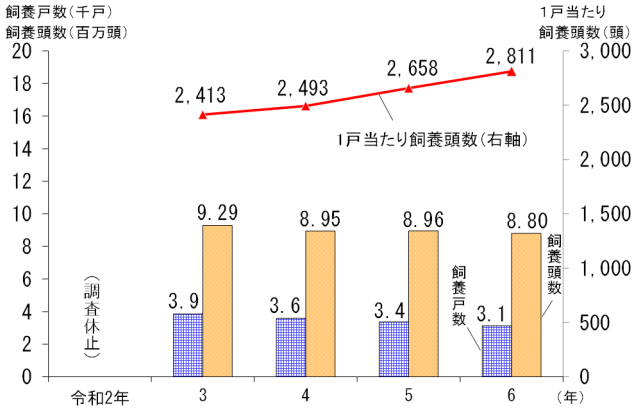


◆飼養動向

６年２月現在の１戸当たり飼養頭数、前年比５．８％増

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、令和６年は、３１３０戸（前年比７．１％減）と前年からかなりの程度減少し、総飼養頭数も８８０万頭（同１．８％減）と前年からわずかに減少した（図１）。一方、１戸当たり飼養頭数は、１５３．３頭増加して２８１０．９頭（同５．８％増）となった。また、子取り用雌豚の１戸当たりの飼養頭数も１７．４頭増の３１７．３頭（同５．８％増）となった。小規模生産者を中心として飼養戸数が減少する一方、１戸当たり飼養頭数は増加傾向にある。

図１　豚の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」
注１：各年２月１日現在。
注２：令和２年は農林業センサス実施年のためデータなし。

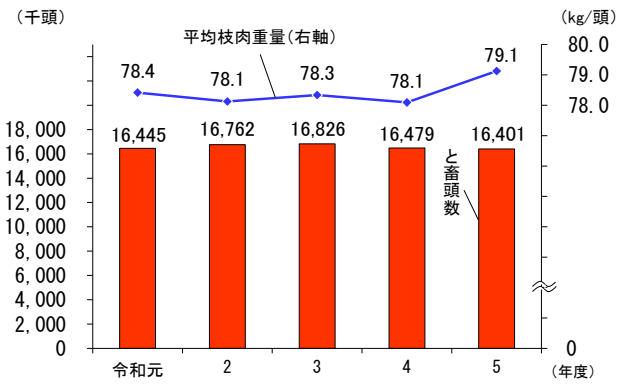
◆生　産

５年度の生産量、前年度比０．９％増

豚のと畜頭数は、近年増加傾向で推移していたものの、廃業による飼養戸数の減少などにより、令和４年度に減少に転じた。５年度も、１６４０万１１７６頭（前年度比０．５％減）と前年度をわずかに下回った（図２）。

また、同年度の１頭当たりの平均枝肉重量は、７９．１キログラム（同１．３％増）と前年度を１．０キログラム上回った。なお、５年１月１日より２６年ぶりに豚枝肉取引規格が改正され、各等級の重量範囲について上限・下限ともに３キログラムずつ引き上げられている。

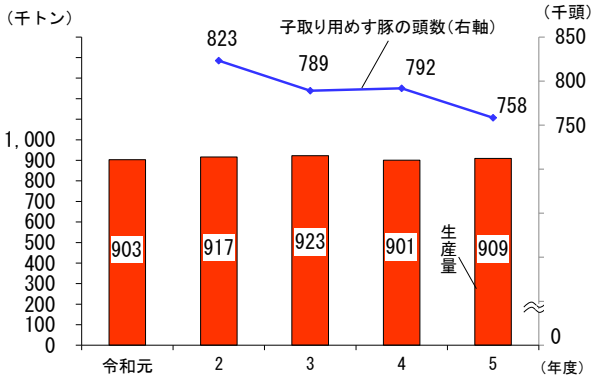
図２　豚のと畜頭数および平均枝肉重量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量についても、近年増加傾向で推移していたものの、４年度には、高齢化による廃業等により減少に転じた（図３）。５年度は、出荷頭数は横ばいであるものの、１頭当たりの出荷体重が増加したことから、９０万８７７５トン（同０．９％増）と前年度をわずかに上回った。

図３　豚肉生産量および子取り用めす豚の頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」
注１：生産量は、部分肉ベース。
注２：子取り用めす豚の頭数は、各年度２月１日現在。令和元年度は農林業センサス実施年のためデータなし。

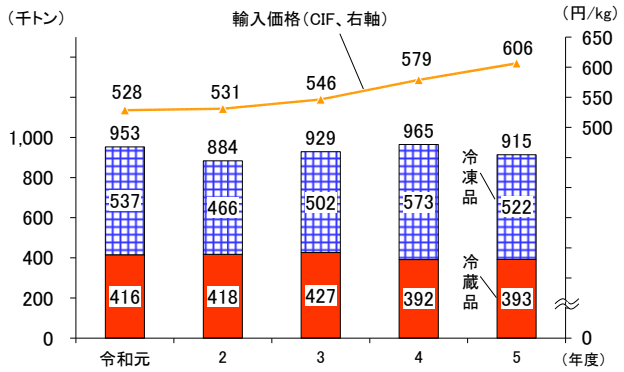
◆輸入

５年度の豚肉輸入量、前年度比５．２％減

豚肉

豚肉の輸入量については、冷蔵品・冷凍品ともに、国内での堅調な需要などから近年増加傾向で推移している。

図４　豚肉の輸入量および輸入価格の推移

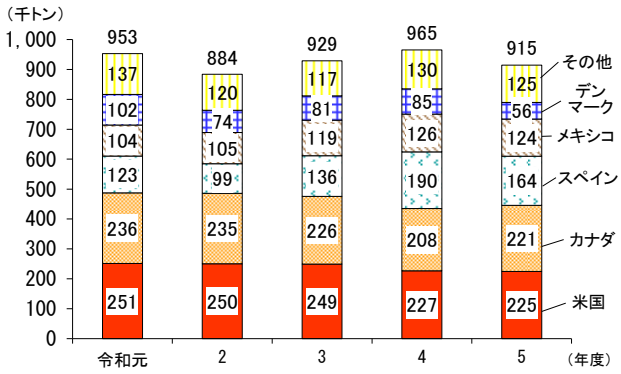


資料：財務省「貿易統計」
注１：部分肉ベース。
注２：合計にはくず肉を含む。

令和５年度は、９１万４５１２トン（前年度比５．２％減）と前年度をやや下回った（図４）。このうち、冷蔵品は３９万２７３９トン（同０．２％増）と前年度並みであった一方、冷凍品は円安や現地相場高の影響などにより欧州産を中心に輸入量が減少したことから、５２万１６４５トン（同９．０％減）と前年度をかなりの程度下回った。

また、輸入先別に、カナダ産が２２万１０５２トン（同６．１％増）と前年度から増加した一方、その他のほとんどの主要国で減少となり、デンマーク産が５万５６３３トン（同３４．２％減）、スペイン産が１６万４１３８トン（同１３．４％減）、メキシコ産が１２万３９３９トン（同１．６％減）、米国産が２２万４７４５トン（同０．９％減）となった（図５）。

図５　豚肉の国別輸入量の推移



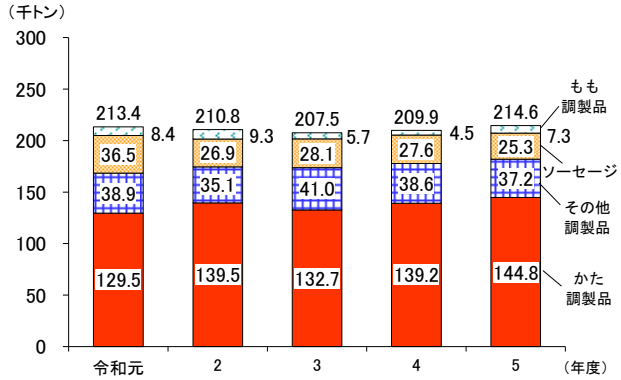
資料：財務省「貿易統計」
注１：部分肉ベース。
注２：くず肉を含む。
注３：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量については、底堅い需要がある中で、現地相場の変動に伴う増減を繰り返している。

令和５年度の豚肉調製品の輸入量は、かた調製品、もも調製品の輸入量が前年度を上回った一方、その他調製品、ソーセージの輸入量が前年度を下回った結果、全体では２１万４５７８トン（前年度比２．２％増）と前年度をわずかに上回った（図６）。

図６　豚肉調製品およびソーセージの輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注１：もも調製品：160241090（関税率 20%）。
注２：かた調製品：160242090（関税率 20%）。
注３：その他調製品：160249290（関税率 20%）。
注４：ソーセージ：令和３年１２月まで 160100000（関税率 10%）。令和３年１月から 160100900（関税率 10%）。
注５：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆消費

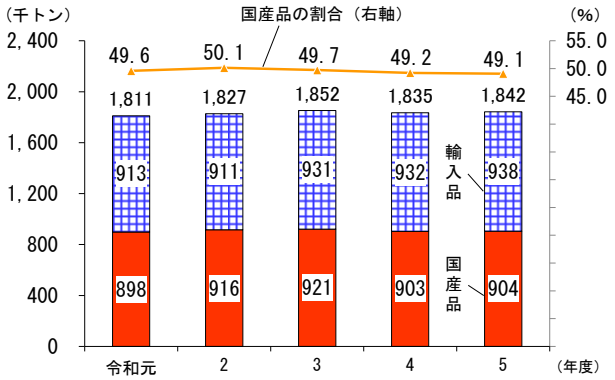
５年度の推定出回り量は前年度比０．４％増、家計消費量は同０．５％増

推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、堅調な豚肉消費を背景に近年増加傾向で推移している。

令和５年度は、国産品は９０万４３１７トン（前年度比０．１％増）と前年度並みとなった一方、輸入品は９３万７９６５トン（同０．７％増）と前年度をわずかに上回った（図７）。この結果、全体では１８４万２２８２トン（同０．４％増）と前年度をわずかに上回った。なお、合計に占める国産品の割合は４９．１％（同０．１ポイント減）と前年度を下回った。

図７　豚肉の推定出回り量の推移

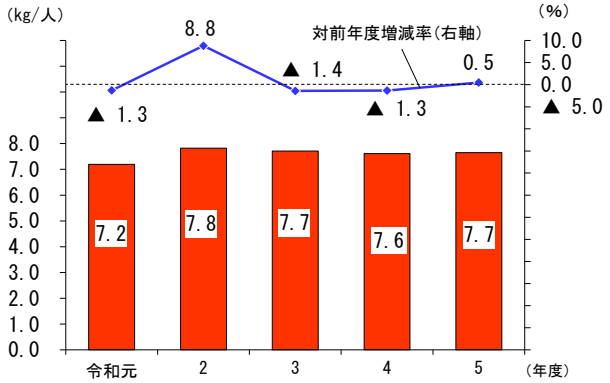


資料：農畜産業振興機構推計
注１：部分肉ベース。
注２：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

家計消費

豚肉消費の約６割を家計消費が占めているが、年間１人当たりの豚肉の家計消費量は、令和２年度に新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ−１９）の影響による巣ごもり需要により増加し、その後も横ばいで推移している（図８）。５年度は、７．７キログラム（前年度比０．５％増）と前年度をわずかに上回った。

図８　豚肉の家計消費量（年間１人当たり）の推移



資料：総務省「家計調査報告」

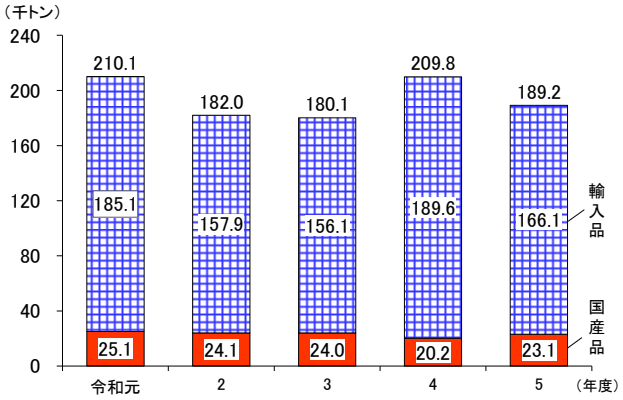
◆在庫

５年度の推定期末在庫量、前年度比９．８％減

豚肉の推定期末在庫量については、約９割を輸入品が占めており、そのうち９割強を冷凍品が占めている。このことから、推定期末在庫は輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和５年度は、国産品は、２万３１１７トン（前年度比１４．３％増）と前年度をかなり大きく上回った一方、輸入品は、冷凍品の輸入量が減少したことなどにより、１６万６１１９トン（同１２．４％減）と、前年度をかなり大きく下回った（図９）。その結果、全体として、１８万９２３６トン（同９．８％減）と前年度をかなりの程度下回った。

図９　豚肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注１：部分肉ベース。
注２：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

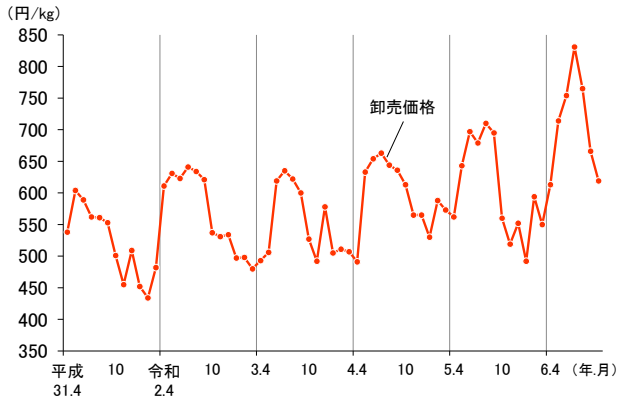
◆枝肉卸売価格

５年度の枝肉卸売価格、前年度比１．３％高

豚枝肉卸売価格（東京、上規格）は、出荷頭数が少なくなる春から夏にかけて上昇基調で推移し、出荷頭数の増加する秋ごろから低下する傾向にある。

令和５年度は、円安や現地相場高により高騰する輸入品の代替需要や牛肉からの需要のシフトなどから、価格は堅調に推移した（図１０）。年度平均では、１キログラム当たり６０４円（前年度比１．４％高）となった。

図１０　豚枝肉の卸売価格（東京、上規格）の推移



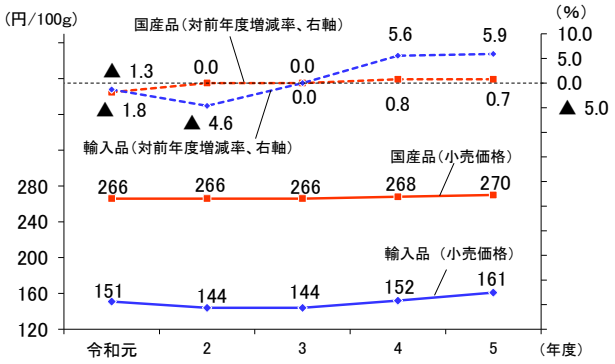
資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：消費税を含む。

◆小売価格

５年度の小売価格、国産品および輸入品のいずれも上昇

令和５年度の豚肉の小売価格（ロース）については、国産品は、生産量が増加したものの、１００グラム当たり２７０円（前年度比０．７％高）と前年度をわずかに上回った（図１１）。輸入品は、円安や現地相場高の影響により、同１６１円（同５．９％高）と前年度をやや上回った。

図１１　豚肉の小売価格（ロース）の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：消費税を含む。